

令和2年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立海南高等学校美里分校 学校長名： 笹井 晋吾 印

めざす学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの可能性を最大限に伸ばすための確かな教育実践を推し進めるとともに、大自然のもと、学校・地域・家庭が連携し、豊かな心を育む学校を目指す。 わかる喜びを感じ、意欲的に学習に取り組む姿勢を身につけるとともに、社会生活に必要な自主自立の精神を養い、人との関わりを大切にする生徒を育てる。
本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的生活習慣を身につけるとともに、授業をきちんと受けることで学習内容の理解を深め、基礎学力の充実とさらなる学習意欲の向上をはかる。 2 教員全員態勢で生徒の指導経過や特性に関する情報を共有し、ひとり一人に応じたきめ細やかな指導を推進することで、生徒の資質・能力を伸ばす。 3 体験活動を充実させるとともに、地域の方々と積極的な交流を図り、社会参加に必要な生きる力の育成をはかる。

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習の到達状況を見極め、個々の生徒に応じた目標を設定するとともに、主体的・対話的な学習活動により幅広い学力を習得させる。 地域の人材、自然資源を生かした特色ある授業、特別活動を展開し、地域や社会に貢献できる人材を育てる。 入学後早期から卒業後の進路実現を目指し、系統だったキャリア教育に取り組み、人間力を身につけた人材を育成する。
学校評価の結果と改善方策の公表の方法	学校評価アンケートや外部評価の結果を、保護者や学校運営協議会に公表するとともに、集計結果をもとにした考察の内容を知らせる。

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					年 度 評 価 (令和 3年 3月 日 現在)		
重 点 目 標					評 価 項 目 の 達 成 状 況		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策	
1	不登校の経験がある生徒や特別な支援を要する生徒、能力はあっても学習習慣が身につけていない生徒が大半を占めており、学習能力の差が顕著である。基礎学力の定着をはかるためには、個々の生徒の特性に応じたきめ細やかな教科指導が求められる。	生徒が意欲的に授業に向かうことを意識し、効果的で具体的な実践を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別学習、グループ学習、チームティーチング、個別指導、夏期補習等の実施 英単語テストや漢字テストなど全校一斉テストの実施 公開授業および研究協議等を通し、「つきたい力」を意識した精度の高い授業づくりをめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 成績不振者が減少している。 生徒がそれぞれの取組に前向きに臨んでいる。 目標設定や指導内容等について、常に改善を図っている。 	B	<p>授業への満足度は高い(アンケートより)が、生徒の学習能力の差は大きく、まだまだ授業研究の必要がある。生徒の実態把握やつきたい力を明確に持った授業ができるよう特別支援の観点からの研修、現職教育が必要である。新年度は一人一台PCが配置されるので、ICTを活用した授業改善に取り組みたい。</p>	
2	全校生徒18名の小規模校だが、不登校傾向の生徒や対人関係に問題を抱える生徒が大半を占め、中には特別な支援を必要とするケースもある。HR運営や集団活動に支障をきたさないようにするため、教職員が緊密な情報交換・共通理解のもと、全員態勢で生徒指導に当たる必要がある。	様々な授業や行事を通して、自己肯定感を育み、他者と自然な関わりが持てるような、社会性を育成する実践をしている。保護者や関係機関等との信頼関係を築き、連携して生徒指導に当たっている。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人的資源を有効に活用し、授業や特別活動を充実させる。 指導方法の共通理解を図るため、関係分掌を中心に検討会を開催する。 関係機関等との連携を進化させながら、特別支援教育校内委員会を中心に、中学校や関係機関等と緊密に連携を図りながら、生徒指導に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各取組の充実を図り、地域の方々と交流する機会を創出している。 目標設定や指導内容・方法等を検証するための検討会を開催している。 特別支援教育校内委員会を中心に、中学校や関係機関等と緊密に連携を図りながら、生徒指導に生かしている。 	B	<p>ほとんど地域外出身の生徒であるが、地域との交流に重点を置いて、様々な経験を通して生徒が成長していく取組を推進していきたい。課題を抱えた生徒が多く、スクールカウンセラー等外部のスタッフや、関係機関との連携が不可欠である。今後も職員間の情報共有を密にするとともに、児童相談所や医療機関等との連携を前提にした支援・指導体制の確立に努めたい。</p>	
3	職業意識や進路意識が希薄で進路決定の時期が遅くなる傾向にある。1学年から系統的なキャリア教育を重ね、具体的な将来像や将来への展望を見いだせるようにする必要がある。発達障害等の課題を抱える生徒の進路については、保護者や関係機関と緊密に連携しながら指導する必要がある。	1年次から3年次まで、学年に応じた進路学習を積み重ねている。様々な取組を通して人との関わり方や、自己の適性を理解することができている。	<ul style="list-style-type: none"> 進路説明会や進路LHRの充実 進路講演会や外部講師による特別授業の実施 地域交流行事やボランティア活動、インターンシップ等に参加することにより、社会性を育成する。 生徒の進路に応じた教員全員態勢での指導 	<ul style="list-style-type: none"> 進路意識を向上させるための系統的な取組を実施している。 生徒が様々な活動に主体的に取り組んでいる。 面接指導等、個々の生徒の状況に応じた指導ができている。 	A	<p>新型コロナの影響により、インターンシップは中止となったが、感染対策を施しながら企業・学校訪問や進路ガイダンスなどの企画を実施し、生徒の進路意識の向上に努めた。個々の生徒の適性や生徒・保護者の希望を丁寧に聞き取り、一人ひとりに応じた進路実現を目指した。進学・就職希望者それぞれに個別指導を行い、進路を確定することができた。</p> <p>生徒の進路意識の向上のため、企業訪問等の体験的な学習やインターンシップなど、学校外における取組を継続して行う必要がある。大学入試制度の変更について生徒に的確な情報提供、生徒個々の適性・希望の把握を行い適切な進路指導を行う必要がある。将来の社会(Society5.0)について意識を高め、必要な能力を育成する取組を検討することも必要である。</p>	

学 校 関 係 者 評 価	
令和 3年 2月15日 実施	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
○生徒、保護者・外部アンケートでは多くの項目で「そう思う」「ややそう思う」の肯定的な回答が多く、高い評価を得ている。以下抜粋	
「地域との交流、学校行事等の体験活動が充実しており、他の学校にはない特色がある。」	
・保護者・外部アンケート 「そう思う」92%、 「ややそう思う」8% 合計100%	
「一人一人を大切に、心の通ったきめ細やかな教育ができています。」	
・保護者・外部アンケート 「そう思う」58% 「ややそう思う」38% 合計96%	
「わかりやすい充実した授業をしているかどうか」	
・生徒アンケート 「そう思う」69% 「ややそう思う」31% 合計100%	
・保護者・外部アンケート 「そう思う」58% 「ややそう思う」42% 合計100%	
「進路に関する情報提供に努めていると思いますか。」	
・保護者・外部アンケート 「そう思う」58% 「ややそう思う」42% 合計100%	
○学校設備、施設については、「限られた施設で有り、老朽化も進んでいるため、十分ではない。」との意見が多い。	
○通学費用(PTA契約バス)については、高額で家計に負担が大きい。費用の削減や公的な補助ができないものかという意見・要望がある。	